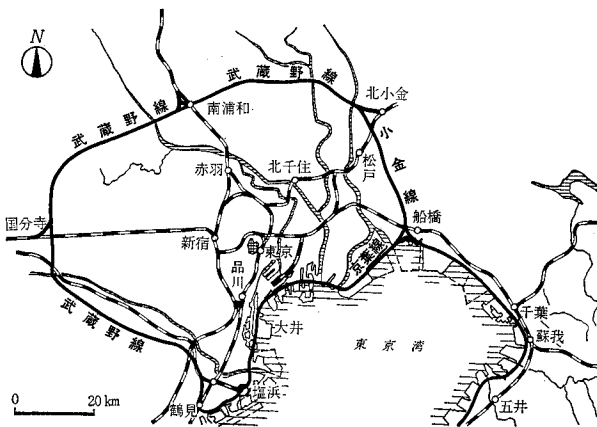
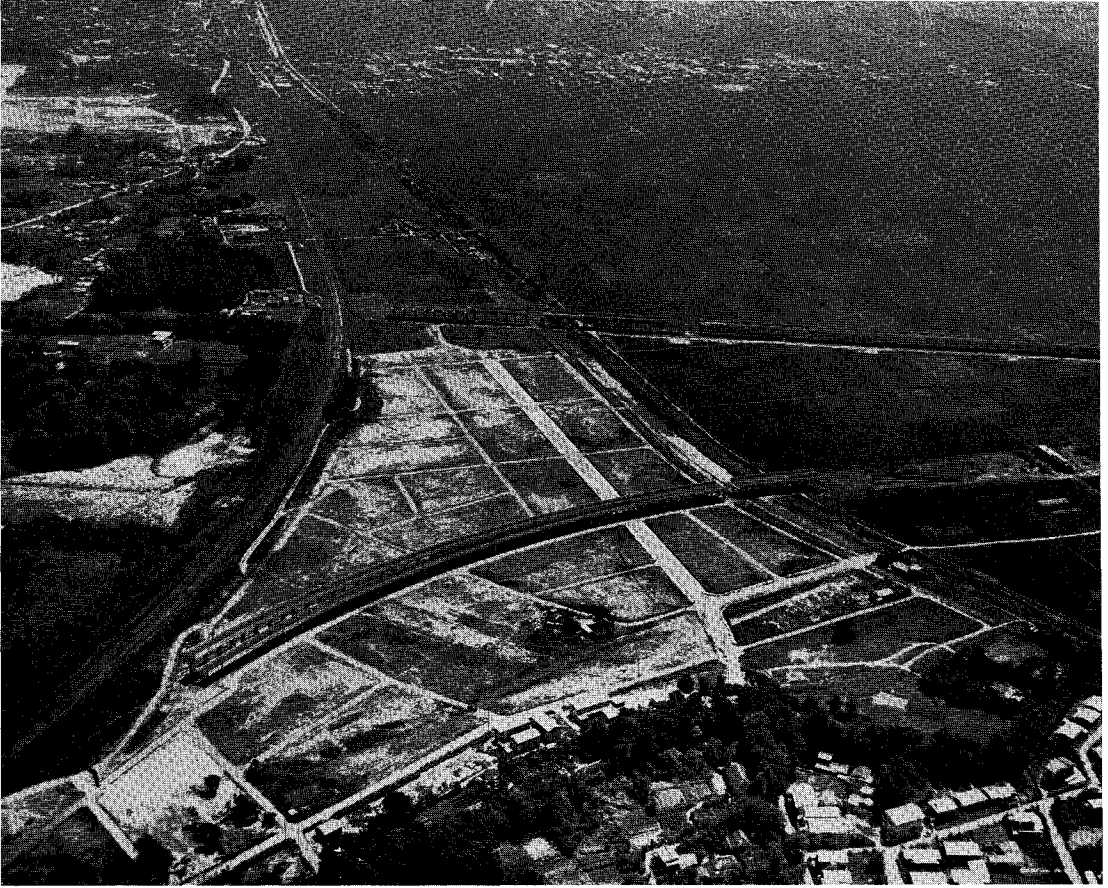


近代的な国鉄郡山操車場完成

東北本線の主力操車場として、また東京にある大宮、田端、新鶴見操車場のバイパス系の1つとして、近代的な設備を誇る郡山操車場がこのほど完成した。本操車場は、東北本線安積永盛～郡山間に建設されたもので、昭和43年9月使用を開始した。今回完成をみた本操車場は、従来の操車場がかかえていた諸問題点を打開するために、自動化・近代化が各所で試みられた。また、ヤード作業には電子計算機を駆使し、作業の安全と能率の向上をはかった。なお、自動化・近代化された主な点は、貨物列車の分解作業、組成作業の自動化、情報処理の自動化、電源・照明の近代化等である。詳細は、本文報告欄を参照されたい。

建設すすむ “東京外環状線”



“東京外環状線”と呼ばれる新線建設が昭和 39 ~ 50 年という長い工期をもって進められている。武蔵野線、小金線、京葉線を結んで東京の外周を半径約 20 km でまわる本線は、増大する首都圏交通量の消化を目指す建設工事である。このうち、上記 3 線は昭和 46 年度までに完成させることを目標としており、各所で盛んに工事が行なわれている。写真は一部完成した高架橋で、常磐線北小金駅付近で写したものである。左側の複線が常磐線、下側の高架が北小金駅へ入る新線、上の高架は船橋方面へ延びる新線である。

コンクリート標準示方書

昭和 42 年版 B 6 438 ページ上製

1000 円 会員特価 800 円 円 100 円

コンクリート標準示方書 解説

昭和 42 年版 A 5 360 ページ上製

1300 円 会員特価 1000 円 円 100 円

人工軽量骨材コンクリート 設計施工指針 (案)

B 6 54 ページ並製

300 円 会員特価 250 円 円 50 円

プレパックドコンクリート 施工指針 (案)

B 6 38 ページ並製

220 円 会員特価 180 円 円 50 円

プレストレストコンクリート 設計施工指針

昭和 36 年版 B 6 124 ページ上製

350 円 会員特価 250 円 円 70 円

コンクリート標準示方書改訂にともなう補足データ

昭和 42 年版 夏期講習会資料

B 5 128 ページ並製 (残部僅少)

900 円 会員特価 700 円 円 100 円

土木材料実験指導書 昭和 43 年版

B 5 118 ページ・データシート 49 枚

460 円 円 70 円

鉄筋コンクリート工場製品 設計施工指針 (案)

44 年 3 月発行予定

コンクリート工学書

土木学会コンクリート委員会の編集による

示方書・設計施工指針・吉田賞受賞論文・研究報告など
豊富なデータを次々と公開



郵便番号 一六〇 東京都新宿区四谷二丁目
振替東京二六八三三 電話 (三六) 四三三二番

土木学会

1 吉田徳次郎 **コンクリートの話**
— 吉田徳次郎博士御遺稿より — 絶版

2 土木学会編 **第1回異形鉄筋シンポジウム**
<10編の発表論文を収録> 絶版

4 国分ほか3 **ペーストによるフライアッシュの使用に
関する研究** 絶版

6 川口 輝夫 **鉄道橋としてのプレストレストコンクリ
ート桁の設計方法に関する研究** 絶版

8 山崎 寛司 **鉱物質微粉末がコンクリートのウォーカビリチー
および強度におよぼす効果に関する基礎研究** 絶版

13 港湾技研編 **プレパックドコンクリート施工例集**
<運輸省港研による調査記録> 絶版

3 土木学会編 **異形鉄筋を用いた鉄筋コンクリート構造
物の設計例・昭和43年改訂版** 絶版

B 5判 92 ページ・折込付図 5 枚 定価 700 円 会員特価 600 円 円 70 円

I 鉄筋コンクリート T 形けた橋 (鉄道橋) 設計例 II 鉄筋コンクリート T 形橋 (道路橋) 設計
例 III 鉄筋コンクリート 倒立 T 形よう壁設計例 IV 鉄筋コンクリート 控え壁式橋台 (道路橋)
設計例 V 鉄筋コンクリート ラーメン橋脚 (道路橋) 設計例 参考資料 高張力異形鉄筋につい

<新刊> て 他に土木製図基準にもとづく設計付図 5 枚 ●大学教科書に最適●

5 和仁ほか 4 **小丸川 PC 鉄道橋の架替え工事ならびに
これに関連して行なった実験研究の報告**
<昭和 36 年度吉田賞受賞論文>

B 5判 38 ページ 定価 200 円 会員特価 150 円 円 70 円

7 村田 二郎 **コンクリートの水密性の研究**
<昭和 37 年度吉田賞受賞論文>

B 5判 36 ページ 定価 120 円 会員特価 100 円 円 50 円

9 石田 一郎 **添えばりを用いるアンダーピンニング工法
の研究** <昭和 37 年度吉田賞受賞論文>

B 5判 18 ページ 定価 120 円 会員特価 100 円 円 50 円

10

土木学会編

構造用軽量骨材シンポジウム

B 5 判 96 ページ 定価 500 円 会員特価 400 円 ㊦ 70 円

軽量骨材を用いるコンクリートにおける問題点 国分/構造用軽量骨材に関する 2, 3 の実験 後藤・杉山・満木/人工軽量骨材を用いたコンクリートの熱的性質について 徳田・伊藤/軽量コンクリートの乾燥収縮と耐熱性について 丸安・小林・伊藤/人工軽量骨材を用いたコンクリートの力学的性質に関する実験結果 西沢/軽量骨材コンクリートの付着強度 樋口・西郷/軽量コンクリートの水密性および軽量鉄筋コンクリート桁の曲げおよびせん断試験について 村田/PC 桁に使用する軽量コンクリートの打込み方法についての試験 菅原/人工軽量骨材を用いたコンクリートの諸性質に関する研究 山崎・西岡・国本/人工軽量骨材を用いた PC 桁に関する実験 西岡・国本・宮地・長尾・奥平/軽量骨材を用いた PC 橋梁における設計上の問題点について 野口・小池/合成桁における軽量橋梁と一般橋梁の比較設計 山岡/人工軽量骨材を用いたコンクリートの一実験 小川・阿部 <以上 13 編>

11

樋口 芳朗

微細な空げきてん充のためのセメント注入における混和材料に関する研究

<昭和 38 年度吉田賞受賞論文>

B 5 判 28 ページ 定価 120 円 会員特価 100 円 ㊦ 50 円

12

岩間 滋

コンクリート舗装の構造設計に関する実験的研究

<昭和 38 年度吉田賞受賞論文>

B 5 判 34 ページ 定価 120 円 会員特価 100 円 ㊦ 50 円

14

土木学会編

第 2 回異形鉄筋シンポジウム

B 5 判 236 ページ 定価 1100 円 会員特価 900 円 ㊦ 90 円

コンクリートに対する異形鉄筋の付着性状に関する研究 国分・岡村/各種の高張力異形鉄筋を用いた鉄筋コンクリート大型ばりの曲げ性状に関する研究 松本・中村・河野・中山・岡村/異形鉄筋の付着強度および応力集中度試験 樋口・音羽・西郷・岩井/異形鉄筋の付着に関する実験 横道・藤田/異形鉄筋の付着に関する 2, 3 の実験 杉木・河野/鉄筋コンクリートばりによる異形鉄筋とコンクリートとの付着強度試験結果について 西沢・米山/異形鉄筋の付着および定着について 村田/鉄筋コンクリートばりの重ね継手に関する実験 丸安・小林・伊藤/鉄筋コンクリート部材引張部のひびわれに関する研究一両引供試体による実験一後藤・植田・満木/コンクリートのひびわれと鉄筋の露出 神山/異形鉄筋のひびわれの分散について 六車・森田・角/異形棒鋼 (SD 35・40) の疲れ強さ 富田・渡辺/高強度異形鉄筋を用いた鉄筋コンクリートばりの疲労に関する基礎研究 国分・岡村/各種の高張力異形鉄筋を用いた鉄筋コンクリート大型ばりの疲労に関する研究 国分・多田・立花・松本/異形鉄筋の静的および疲労強度について 横道・藤田/鉄筋コンクリートばりの疲労破壊について 丸安・小林・伊藤・工藤/各種異形鉄筋を用いた T 形ばりの疲労試験 中山/異形鉄筋を用いた RC 桁の曲げ疲労試験 横道・藤田・西堀/異形鉄筋コンクリートまくらぎ 三浦 <以上 19 編>

15 土木学会編 **ディビダーク工法設計施工指針(案)**

B 5 判 88 ページ 定価 700 円 会員特価 500 円 円 80 円

1 編 総則 2 編 材料 1 章 材料の品質 2 章 コンクリートおよび鋼材の試験 3 編 施工
1 章 施工一般 2 章 グラウト 3 章 工事記録 4 編 設計 1 章 設計に関する一般事項
2 章 構造細目 3 章 曲げ応力に対する計算 4 章 破壊に対する安全度 5 章 せん断応力に
対する計算 6 章 許容応力度 付：ディビダーク工法設計・施工の参考

16 藤田 嘉夫 **単純曲げをうける鉄筋コンクリート桁および
プレストレストコンクリート桁の極限強さ設
計法に関する研究**

<昭和 39 年度吉田賞受賞論文>

B 5 判 34 ページ 定価 150 円 会員特価 120 円 円 50 円

17 土木学会編 **MDC 工法設計施工指針(案)**

B 5 判 94 ページ 定価 700 円 会員特価 500 円 円 80 円

1 編 総則 2 編 材料 1 章 材料の品質 2 章 コンクリートおよび鋼材の試験 3 編 施工
1 章 施工 2 章 グラウト 3 章 工事記録 4 編 設計 1 章 設計に関する一般事項 2 章
構造細目 3 章 曲げ応力に対する計算 4 章 破壊に対する安全度 5 章 せん断応力に対する
計算 6 章 許容応力度 付：MDC 工法設計・施工の参考

18 尾坂 芳夫 **現場コンクリートの品質管理と品質検査**

B 5 判 108 ページ 定価 700 円 会員特価 550 円 円 80 円

1 概説 2 品質管理に用いる統計数理の基礎事項 3 コンクリートの品質管理 4 品質管
理の実施例 5 参考文献 6 付録

19 赤塚 雄三 **港湾工事におけるプレパックドコンクリートの
施工管理に関する基礎研究**

<昭和 40 年度吉田賞受賞論文>

B 5 判 38 ページ 定価 220 円 会員特価 200 円 円 50 円

20 土木学会編 **フライアッシュを混和したコンクリートの
中性化と鉄筋の発錆に関する長期研究**

B 5 判 56 ページ 定価 500 円 会員特価 450 円 円 70 円

1 緒言 2 研究計画 3 使用材料 4 コンクリートの品質 5 材令 2 年におけるコンク
リートの中性化と鉄筋の発錆 6 特殊配合による中性化試験と鉄筋の発錆 7 結語 付録・材
令 2 年における共通試験結果一覧

〈新刊〉

内容・主旨紹介

今月号の登載記事の要旨を記してあります。切り取ってパンチカードにはりつけて整理に供して下さい。

関屋分水路事業の概要——河道設計を中心として——／石井文夫

土木学会誌第 53 巻第 10 号, pp. 19~24, 昭和 43 年 10 月 (October 1968)

関屋分水路事業は、新潟市周辺の旧信濃川の治水対策を主目的として、新潟港の機能増進、新潟西海岸の欠潰防止、東側に分断された新潟市の都市機能の融合等、最近とみに緊急性をましてきた新潟市周辺の諸問題を抜本的に解決するものとして、新潟市西部に幅約 300 m, 延長約 2 km の放水路を開削するものである。

市街地を開削することによる約 660 戸におよぶ家屋移転、あるいは河川の短絡にもとづく水理諸元の変化等、自然的、社会的、経済的に検討すべき諸問題があった。

ここに事業計画の概況を紹介し、特に検討を加えた河床安定の問題について、5 年の流量実績、Shaffernak の河床形成流量、計画高水波型を与えた場合の河床の推移の計算結果を示し、計画河床の有意性を検証するものである。

500 000 DWT Mitsui Dinosaur Building Dock 建設工事／桂川輝長

土木学会誌第 53 巻第 10 号, pp. 25~31, 昭和 43 年 10 月 (October 1968)

世界第 1 位の進水量を誇るわが国は、必然的にドックの建設が必要である。15 万~30 万トン級のドックでは近年その需要に応じ切れないので、世界最大級の 50 万トン級のドックの建設が要求されるに至り、410×72×12.5 m のドックがその一つとして千葉に建設された。本報告は 1967 年 1 月起重工、1968 年 2 月に完成をみた三井船舶ドックの工事報告である。短期施工と土工量の大きいことが特筆される工事である。

近代的操車場の誕生——郡山操車場の新設工事報告——／横山浩雄・菊地 宏

土木学会誌第 53 巻第 10 号, pp. 32~40, 昭和 43 年 10 月 (October 1968)

東北本線の主力操車場として、また東京にある大宮、田端、新鶴見の各操車場のバイパス系の一つとして建設された近代的設備を誇る郡山操車場の建設報告である。本操車場は、東北本線安積永盛~郡山間に建設されたもので、昭和 43 年 9 月使用を開始した。本操車場は、各所に自動化が試みられ、電子計算機の導入により作業の安全と能率の向上が計られている。

長大な海底埋設式取水鋼管における保守上の問題点——東海発電所復水器冷却水

取水鋼管の現況——／辻本 進・竹村立史・大西外明・渡辺嘉男

土木学会誌第 53 巻第 10 号, pp. 41~44, 昭和 43 年 10 月 (October 1968)

昭和 35 年月に着手、同 42 年に建設を完了、全出力運転を開始した東海発電所は、復水器冷却用に 16 m³/sec の海水を取水している。本論文は東海発電所の経験をとおして、恵まれない海象条件下の取水例をして、取水鋼管の保守上の二、三の問題点を報告し、発電所にかぎらず各種工業用水の今後の取水計画に参考となるよう配慮している。

ウォーターカーテンによる地下水位制御／赤井浩一

土木学会誌第 53 巻第 10 号, pp. 49~54, 昭和 43 年 10 月 (October 1968)

本報告は室内の浸透実験において、伏流水に対応するものとして山側から一定流量を流して地下水面をつくり、さらに模型クリークより注水した場合に現われるウォーター・カーテンの形成機構を述べ、琵琶湖岸で行なわれた大規模なクリーク工法に関する現地実験によって実際への適用の可能性を検討するものである。

プレストレスしない連続合成げたの静的実験／橘 善雄・向山寿孝・湊 勝比古

土木学会誌第 53 巻第 10 号, pp. 55~61, 昭和 43 年 10 月 (October 1968)

従来のプレストレスを用いる連続合成げた橋では、設計の繁雑さや工期が長くなるという欠点があった。このような不利な点に対処するために、プレストレスしない連続合成げた橋が考えられた。この形式の考え方は、床版コンクリートの引張応力を認めず、断面力としての正モーメントに対しては合成断面で、負モーメントに対しては鋼げた断面と床版内の橋軸方向鉄筋断面のみでとらえるものである（そのため負モーメントに対しても適当なジベルを配置する）。この形式の橋を設計する際に生じる種々の問題点について、模型げたを用いて静的実験を行なったものである。

建設技術者のための測定法

新刊

土木学会誌に連載された講座「測定」を
読者の要望にこたえて全面的に改筆・加
筆した決定版です。

技術革新のいちじるしい現代では、あら
ゆる現象を定量的にとらえて技術を推進
してゆかなければなりません。

本書は建設工事に従事するすべての技術
者に必須な知識である「測定」に関する
始めてのユニークな単行本です。

目次

- 第1章 総説
- 第2章 測定器械 2.1 流体に関する測定器 2.2
固体に対する測定器 2.3 電気変換測定装置
2.4 電波・レーザー光および音波利用測定機
2.5 記録装置
- 第3章 測定値の処理法 3.1 データのまとめ 3.2
母集団と標本 3.3 確率分布 3.4 標本分
布 3.5 推定 3.6 検定 3.7 実験式の
あてはめ 3.8 周期的変動をする測定値の処
理 3.9 現象解析上の統計処理
- 第4章 気象に関する測定 4.1 気圧に関する測定
4.2 気温に関する測定 4.3 湿度に関する
測定 4.4 蒸発に関する測定 4.5 霧に関
する測定 4.6 雨に関する測定 4.7 雪に
関する測定 4.8 風に関する測定
- 第5章 地盤に関する測定 5.1 土質に関する測定
5.2 岩盤に関する測定 5.3 地すべり、砂
防に関する測定
- 第6章 水に関する測定 6.1 流水に関する測定 6.2
河川に関する測定 6.3 海岸に関する測定
- 第7章 構造物に関する測定 7.1 応力および振動の
測定 7.2 ダムに関する測定 7.3 橋梁(上
部工)に関する測定 7.4 橋梁(下部工)に
関する測定 7.5 トンネルに関する測定
- 第8章 交通運輸に関する測定 8.1 道路に関する測
定 8.2 鉄道に関する測定 8.3 空港に関
する測定
- 第9章 衛生工学に関する測定 9.1 上水、工業用水
に関する測定 9.2 下水道に関する測定 9.3
水質汚濁に関する測定 9.4 大気汚染に関す
る測定

A 5判 422ページ上製

■定 価 2000 円□

□会員特価 1800 円■

<送料は 110円です>

土木学会測定法編集小委員会

委員長 高田 孝信

委員 伊吹山四郎 奥田 稔

久保慶三郎 合田 良実

佐藤 裕 高橋 彦治

谷口 敏雄 服部昌太郎

樋口 芳朗

委員兼 柏谷 衛 土屋 昭彦

幹事 中村 英夫 林 正夫

山本 稔 渡辺 隆

◁ 申込方法 ▷

代金に送料を添え前金でお
申込み下さい。まとまった
お申込みは送料が安くなり
ますのでご相談ください。

郵便番号 160

東京都新宿区四谷1丁目

電話 351-4131(直)

振替 東京 16828

取引銀行□第一銀行八重洲口

支店・四谷支店/住友銀行麹

町支店/三菱銀行四谷支店/

富士銀行四谷支店

 土木学会

ジェットエゼクター式高深度しゅんせつ船の開発／東 美

土木学会誌第 53 巻第 10 号, pp. 62~68, 昭和 43 年 10 月 (October 1968)

6年の才月と10数億円の資金をかけて開発されたしゅんせつ船の開発・使用報告である。本しゅんせつ船は、① 50~100 mの高深度からの揚土が可能であること、② 岩盤を除くすべての地層に適用できること、③ 設置方式を変えることにより、特定の層に円形の孔を掘ることができる等々の利点があるとされている。

吸収体消波工の消波効果／加藤重一・乃万俊文

土木学会誌第 53 巻第 10 号, pp. 69~71, 昭和 43 年 10 月 (October 1968)

増養殖漁場の外かく施設としての消波工には、その条件の一つとして海水の交換を阻害しないことが望まれる。そのためには、静水面付近にのみ消波施設を設ける構造が考えられる。ここでは静水面付近に摩擦機構をもった消波体を設置し、実用上その消波機能の一般的傾向を実験的に調べたものである。

水の話あれこれ／内藤幸穂

土木学会誌第 53 巻第 10 号, pp. 72~75, 昭和 43 年 10 月 (October 1968)

水道に関する記事は、取水、浄水、その他建設にまつわる報告として多く記されているが、「水」そのものの性質等については比較的報告されていない。本文は、水の歴史、水道史、良質な水、安い水等々、「水」についての話題を追ったものである。毎日の生活に欠かすことのできない「水」について、記されている話題の数々は興味深い。

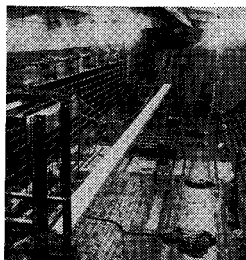
高速道路と事故あれこれ／吉田 滋

土木学会誌第 53 巻第 10 号, pp. 76~81, 昭和 43 年 10 月 (October 1968)

東名高速道路が供用開始された時点で、道路管理者側と使用者側・マスコミとの間で「発生した事故」に対する考えかたに大きな差異があったことが話題をよんだ。本文は、高速道路を建設・管理する側から、この間の事情、すなわち、高速道路の事故、建設の話題、その他を随想風に記したものである。今後高速道路を建設する者、利用するものにとって、有意義な読物である。

土木学会本州四国連絡橋技術調査委員会編

本州四国連絡橋技術調査報告書



<input type="checkbox"/> 本州四国連絡橋技術調査報告書	A 4	504ページ
■ 耐風設計指針1967および同解説 <同・付属資料1>	A 4	182ページ
■ 耐震設計指針1967および耐震設計詳説 <同・付属資料2>	A 4	194ページ
<input type="checkbox"/> 鋼材に関する調査資料 <同・付属資料3>	A 4	142ページ
以上4冊・上製箱入合本	計	1022ページ

頒 価 9000 円(千とも) ■は分売します 残部僅少につき至急土木学会へお申込み下さい。再版は不可能です。書店では取扱いません。

土木技術者のための振動便覧

重版

目次

基礎編

- 第1章 振動理論 1.1 自由度系の振動 1.2 多自由度系の振動 1.3 非線型振動 1.4 自励振動 1.5 不規則振動
- 第2章 地盤の振動 2.1 地盤を伝わる波動 2.2 弾性波の反射・屈折 2.3 境界を伝わる波動 2.4 地層の共振 2.5 上載荷重による地盤の振動 2.6 地盤のソイルプリズムとしての取り扱い 2.7 地盤の k 値による取り扱い
- 第3章 構造物の振動 3.1 棒の縦振動 3.2 はりの振動 3.3 トラスの振動 3.4 連続ばり, ラーメンの振動 3.5 つり橋の振動 3.6 アーチの振動 3.7 膜・板の振動 3.8 Rayleigh-Ritzの方法
- 第4章 流体を含む系の振動 4.1 自由表面の振動 4.2 管水路の振動 4.3 圧縮性流体 4.4 平板に沿うまたは管中の振動流 4.5 静水に接する物体の振動 4.6 流水中の物体の振動
- 第5章 振動測定および各種解析法 5.1 基本的事項 5.2 測定および試験計器 5.3 測定結果の解析 5.4 測定・解析の自動化
- 第6章 土と材料の動的性質 6.1 土の動的性質 6.2 岩石の動的性質 6.3 歴青材料の動的性質 6.4 コンクリートの動的性質 6.5 鋼の動的性質
- ### 応用編
- 第7章 地震による振動 7.1 地震学概論 7.2 地震津波 7.3 地震時の土圧 7.4 地震時の水圧 7.5 震度法と設計震度 7.6 静的耐震設計 7.7 動的耐震設計 7.8 耐震設計施工上の注意
- 第8章 風による振動 8.1 風の特長 8.2 風害 8.3 物体に作用する風力 8.4 風による構造物の振動 8.5 土木構造物の耐風設計 8.6 風洞実験
- 第9章 水による振動 9.1 静水の慣性抵抗圧 9.2 管水路および開水路における振動 9.3 流水による水理構造物・水力機械の励振 9.4 キャビテーション 9.5 波の特長 9.6 セイシュおよび副振動 9.7 波による浮体の運動 9.8 波による構造物の振動
- 第10章 車による振動 10.1 車両振動の特長 10.2 鉄道線路の振動 10.3 道路の振動 10.4 橋梁の振動 10.5 地下埋設物の振動 10.6 走行面の整正限度
- 第11章 機械による振動 11.1 機械振動の特長 11.2 機械基礎の振動 11.3 防振法 11.4 流体機械の振動 11.5 建設機械の振動
- 第12章 衝撃的現象 12.1 なだれ 12.2 落石 12.3 落下水 12.4 発破 12.5 くい打ち 12.6 衝突
- 第13章 振動の利用 13.1 地質調査 13.2 振動による構造物調査 13.3 超音波の利用 13.4 常時微動の利用 13.5 振動を利用した工事用機械
- 付録 A1 耐震規定 A2 耐風設計規定 A3 構造物の固有振動数 A4 構造物の対数減衰率 A5 振動に対する γ 限度

A 5判 436ページ上製

■定価 2400円□

□会員特価 2000円■

<送料は 110円です>

土木学会土木振動学便覧編集小委員会

委員長 大地 羊三
委員 伊藤 学 池田 康平
石原 研而 大久保忠良
表 俊一郎 久保慶三郎
小坪 清真 小寺 重郎
小林 芳正 後藤 尚男
合田 良実 佐藤 吉彦
佐野 豪一 桜井 彰雄
白石 成人 武川 恵之助
堤 一 中川 義徳
伯野 元彦 林 聡
日野 幹雄 平島 政治
福地 合一 堀井健一郎
宮崎 昭二 山田 善一
山村 和也 芳村 仁

< 申込方法 >

代金に送料を添え前金でお申込み下さい。まとまったお申込みは送料が安くなりますのでご相談ください。

郵便番号 160

東京都新宿区四谷1丁目

電話 351-4131(直)

振替 東京 16828

取引銀行□第一銀行八重洲口

支店・四谷支店/住友銀行麴

町支店/三菱銀行四谷支店/

富士銀行四谷支店



土木学会